



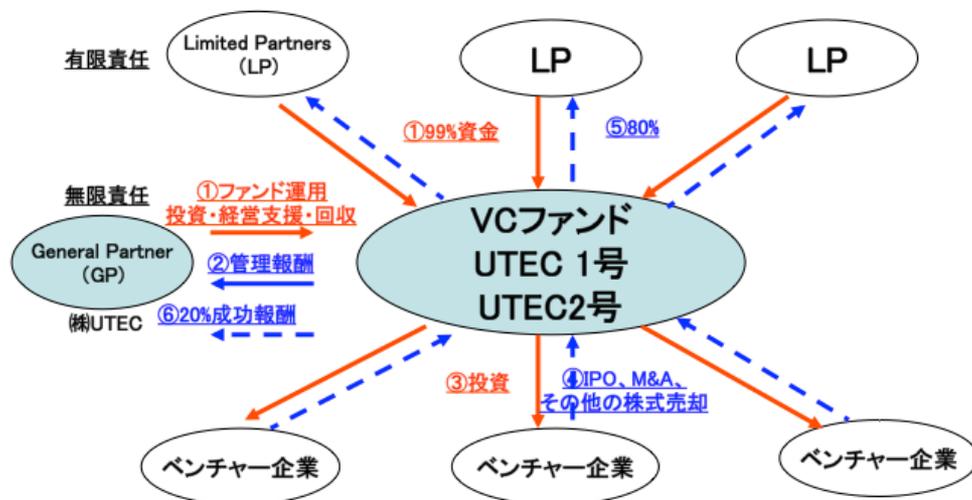
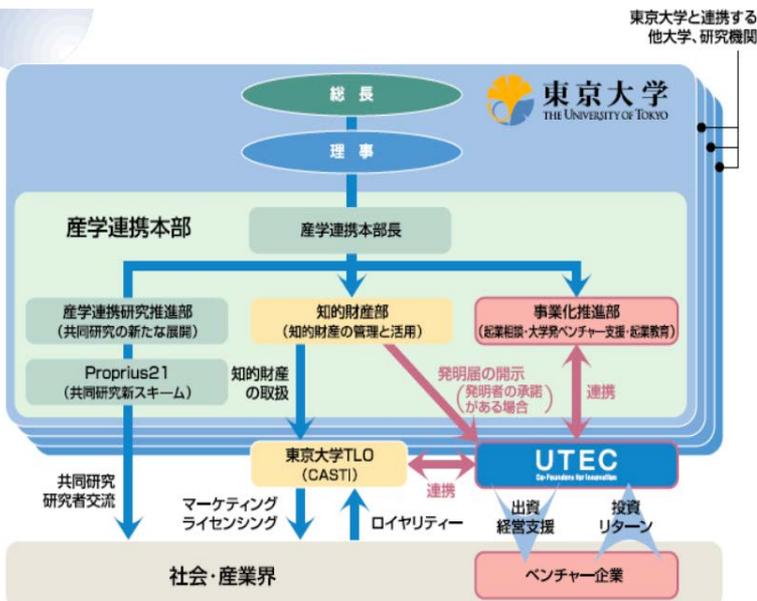
イノベーション創出の共同創業者として 東京大学エッジキャピタル(UTECH)の取組み

2013年4月2日

株式会社 東京大学エッジキャピタル
取締役ジェネラルパートナー
山本哲也

東京大学エッジキャピタル(UTEC)について

- ◆ 2004年4月設立、東京大学承認の「技術移転関連事業者」でベンチャーキャピタル
- ◆ 大学の研究成果や人材を活用したベンチャー企業を創出し、シード段階から投資
- ◆ 現在、総額150億円強のVCファンド(投資事業有限責任組合)を運用



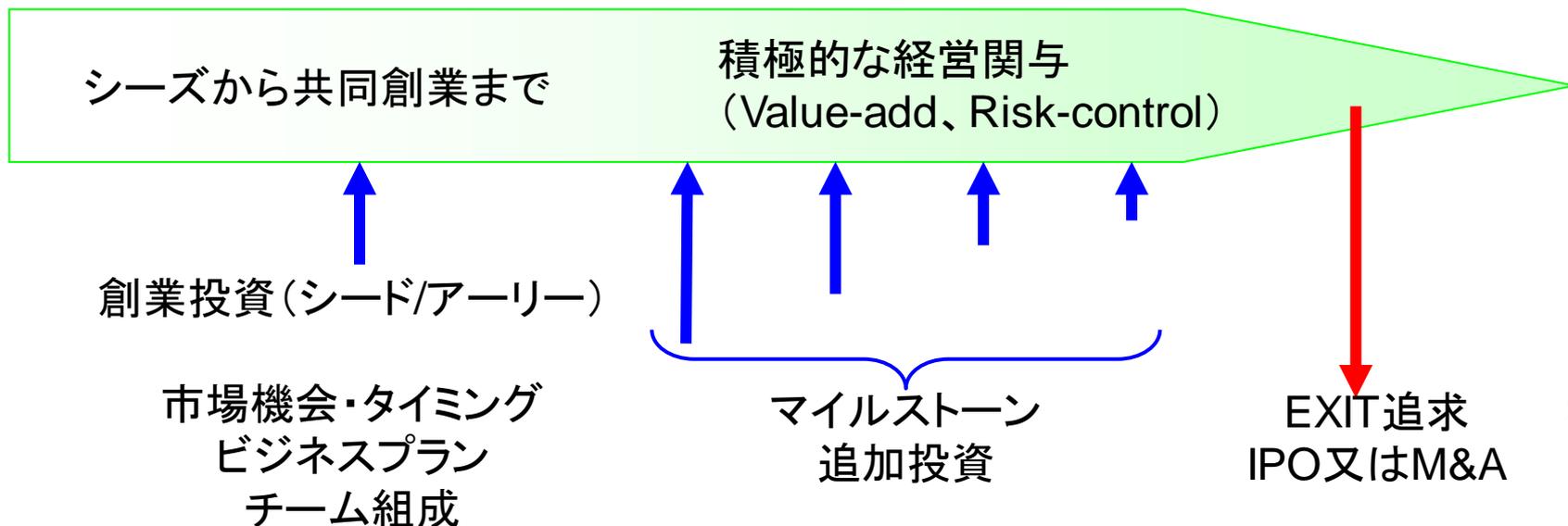
(2013年3月現在)

- ◆ UTEC 1号ファンド 83億円 (2004年設立)
 - 投資先34社 → IPO8社、M&A 6社
- ◆ UTEC 2号ファンド 70億円強 (2009年設立)
 - 投資先 12社 → M&A 1社

(2013年3月現在)

UTEC基本投資戦略

- ◆ 東京大学との連携
 - ◆ 共同創業者
 - ◆ リード投資家
 - ◆ マイルストーン投資
 - ◆ EXIT追求
 - ◆ テクノロジーロールアップ
 - ◆ グローバル
- ▶ 発明届の開示等を通じたシーズへのアクセス。
 - ▶ 市場機会と参入タイミングを見定め、ビジネスプラン構築、チームを組成。研究者や起業家と共同で創業支援を行ない、シード段階で投資。
 - ▶ 相応の持分を持ち、社外取締役として経営に参画。
 - ▶ 1社平均累計4億円を段階的に投資。
 - ▶ IPOやM&A等EXIT実現まで積極的に関与。
 - ▶ 関連する技術を組み合わせ。
 - ▶ 技術を世界市場へ展開することを志向。



UTECチーム(1)

郷治友孝, Managing Partner



2004年4月UTEC創業に参画以来、UTECの1号ファンド「ユーテック一号投資事業有限責任組合」(出資約総額約83億円)、2号ファンド「UTEC2号投資事業有限責任組合」(出資約総額約76.5億円)の設立及び投資運用を行ってきた。代表取締役社長・マネージングパートナー(2006年2月～)。起業時や創業早期における、まだ利益のない段階のベンチャー企業に対するベンチャーキャピタル活動を手がけてきており、以下のような様々な分野の投資先企業に対して経営支援を行ってきた。テラ(株)(2009年3月JASDAQ上場)、(株)モルフォ(2011年7月東証マザーズ上場)、(株)シリウステクノロジー(2010年8月ヤフー(株)により買収)、アドバンス・ソフトマテリアルズ(株)、(株)ウッドプラスチックテクノロジー、popIn(株)、(株)サイアン、Green Earth Institute(株)等。

UTEC参画以前は、通商産業省(現・経済産業省)にて、VCを含むプライベートエクイティファンドの根拠法となった「投資事業有限責任組合契約に関する法律」(投資事業有限責任組合法)(1998年施行)及びその関連規則を起草。同法制定に先立つ1997年、(株)ジャフコに派遣されベンチャーキャピタル業務を学ぶ。このほか、同省にて「中小企業技術革新制度(SBIR制度)」「産業活力再生特別措置法」、文化庁にて「著作権等管理事業法」、金融庁にて「信託業法」の策定に携わる1996年東京大学法学部卒、2003年スタンフォード大学経営学修士課程(MBA)修了。日本スタンフォード協会理事。

辻秀樹, General Partner



クリーンテック、ソフトウェア、デジタルメディア、インターネットサービス関連の投資を担当。FCO Power(株)(燃料電池)、スマートソーラーインターナショナル(株)(太陽電池)、プロメテック・ソフトウェア(株)(GPU Computing)、ライフネット生命保険(株)(インターネット生保、2012年3月東証マザーズ上場)等を担当。投資業務の他、UTEC EIR、UTECサーチ、各種アライアンス等の投資企画業務を主導。UTEC参画以前は、テクノロジー・スタートアップ企業ヴィジョンアーツ(株)(ネットワークインターフェース/ブラウザ代替ソフトウェア)のCOO(最高執行責任者)として、知的財産を中核にした戦略立案・事業開発を統括し、日本を代表するグローバルハイテクメディア企業へのM&Aを実現。それ以前は、通商産業省(現 経済産業省)に勤務し、京都議定書交渉等の環境・エネルギー政策、ベンチャー振興政策、中央省庁再編等を担当。東京大学法学部卒業、米国ペンシルベニア大学ロースクール修士課程修了、英国ロンドンビジネススクール修士課程修了。

山本哲也, General Partner



IT分野を中心とするシード/アーリーステージ投資を担当する他、グローバル戦略にも注力。現在、投資先の株式会社MUJIN社外取締役、米国Ciespace Corporation取締役を兼任。EXIT先では株式会社フィジオス(2013年2月EXIT)、株式会社ネイキッドテクノロジー(2011年9月株式会社ミクシィにより買収)の社外取締役を務めた。

1994年より14年間三井物産(株)に勤務後退職し、2008年7月に当社参画。三井物産では1997年に全社公募で2名のM&A・ベンチャー要員の1人に選ばれ業務部新産業・技術室の投資事業チームに異動。以降、三井物産のベンチャーキャピタル事業の立上げを通じ10年間のVC経験を有する。1997年には日本ベンチャーキャピタル(株)に投資第三部課長として出向した後、1998年より米国三井物産ニューヨーク本店に駐在し投資課マネージャーとして米国ITベンチャー投資を担当。2001年には米国ベンチャーキャピタル会社として三井物産ベンチャーパートナーズ(MCVP)の2億ドルのVCファンド設立に携わり、インベストメント・パートナーとして米国シリコンバレーのITベンチャーへの投資を担当。2003年に帰国し(株)エム・ヴィー・シー(MVC)三井ベンチャーズにて国内のITベンチャーへの投資を担当。2007年には三井ベンチャーズと東京大学産学連携本部との共同研究を開始後10月に三井物産本店に帰任。企業投資部にてカード事業を担当し、ソニー(株)とのJ/Vフェリカ・ポケットマーケティング(株)の設立等に関わる。1994年、英国オックスフォード大学理学部物理学科卒業。M.A. (Oxon.)1999年、米国バブソン大学ベンチャーキャピタリストセミナー受講。

UTECチーム(2)

長妻祐美子, Partner



2004年4月UTEC創業以来、ライフサイエンス分野の投資を担当。株式公開を果たしたナノキャリア(株)、メディシバ、メビオファーム(株)、ラクオリア創薬(株)はじめ、UTEC1号ファンドのライフサイエンス案件の多くを手掛けている。現在は投資担当先にあたる(株)ジナリスおよびGreen Earth Institute(株)の取締役を兼務。UTEC創業以前は、国内ベンチャーキャピタルのエヌイーディー(株)、テクノベンチャー(株)のバイオ投資担当者として、KPCBやNEAとの共同投資を中心に米国西海岸のバイオベンチャーやメディカルデバイスベンチャー20社以上に投資し、うちIPO10社、M&A4社の投資実績をもつ。2000年以降は、日本テクノロジーベンチャーパートナーズ(NTVP)にて国内のバイオベンチャーへのリード投資を行い、大学発バイオベンチャーの社外取締役役に就任するなど創業期の立上げから経営参画による投資支援を実践してきた。中央大学経済学部卒業、米国テネシー州メリヴィル大学留学、社団法人日本証券アナリスト協会検定会員、徳島大学客員助教授(2004年)、東京大学工学部応用化学科非常勤講師(2005年)、現在、東京大学大学院新領域創成科学研究科非常勤講師(2012年)。

片田江舞子, Ph.D., Principal



バイオテック及びヘルスケア分野を中心に、ライフサイエンス関連の技術デューデリ及び投資業務を担当。ペプチドリーム(株)(特殊ペプチド創製技術を応用した創薬事業)のディールソーシングを経て設立に関与し、監査役を兼任。(株)サイフューズ(再生医療)取締役を兼任。その他、アドバンス・ソフトマテリアルズ(株)、スマートソーラーインターナショナル(株)を担当。また、実用化に展開可能な有望技術シーズを東大生が発掘するサマインターン(UTECサーチ)の運営を担当し、学内における重点分野からのテクノロジー探索業務を遂行。UTEC参画以前は、東京都臨床医学総合研究所及び東京大学大学院にて、生化学の基礎研究に従事。東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻修了。博士(理学)。

黒川 尚徳, Ph.D., Principal



新規材料、ナノテクノロジー、オプトエレクトロニクス、画像技術、クリーンテックなど物理・化学関連分野のシード・アーリーステージ案件発掘およびデューデリジェンスを担当し、(株)サイアンでは監査役を兼務。2008年ARCH Venture Partnerにインターンとして参画。2004年から2007年まで、サムソン電子株式会社にて勤務。レーザープリンターの先行研究開発に従事し、画像プロセスおよび材料開発を主に手がける。2003年から2004年まで、株式会社リコー環境技術研究所にて研究員として勤務し、画像デバイス、バッテリー、印刷技術の研究開発に従事。研究成果は米国登録特許として公開されている。2009年シカゴ大学ビジネススクール修了(MBA)。同校主催Edward L. Kaplan New Venture Challenge 2008にて優勝。2003年大阪大学大学院工学研究科応用物理学専攻修了。博士(工学)。

平井 美紀, Principal



2011年4月に当社に参画し、IT関連を中心としたシード・アーリーステージ案件発掘及びデューデリジェンスを担当。(株)フィジオス、(株)ネイキッドテクノロジー監査役を努めた。2010年より、英国TTP Venturesにインターンとして参画。1999年より野村證券に勤務し、テクノロジー関連ベンチャー企業のIPOに携わる。約300社のベンチャー企業を訪問し、資本政策及びビジネスプランなどに関するアドバイスをを行う。2010年ケンブリッジ大学ビジネススクール修了(MBA)。同校主催Cambridge University Enterprise Business Plan Competition 2010及びIntel Challenge 2010(欧州部門)にて優勝。1999年東京大学文学部卒業(南欧語南欧文学専攻)。

- ◆ 当時東京大学、慶応義塾大学でIPA未踏ソフトウェア事業に採択された学生が、プロジェクトを事業化すべく2006年に創業。アーキタイプ(株)がインキュベーション支援。
- ◆ 独自のモバイル向けマルチプラットフォーム・アプリ開発基盤「Colors」を活用したソーシャル・サービスを展開。
- ◆ 2010年にUTECよりシリーズA投資、2011年に(株)ミクシィが買収。



- ◆ ミクシィ社の経営幹部輩出。
- ◆ シリアル・アントレプレナーも輩出。

- ◆ 米国カーネギーメロン大学嶋田教授の高品位メッシュ自動生成技術「バブルメッシュ」の商業化。
- ◆ オープンソースの流体解析ソルバー「OpenFOAM」と統合し、完全クラウドでオープンなCAEプラットフォームを構築。エンジニアリング・ソフトウェア分野でのSalesforce.comを目指す。
- ◆ 2010年にUTECと、米国VCのARCH Venture Partners等と\$4MのシリーズA投資。



Kevin Kerns
CEO



Dr. Kenji Shimada



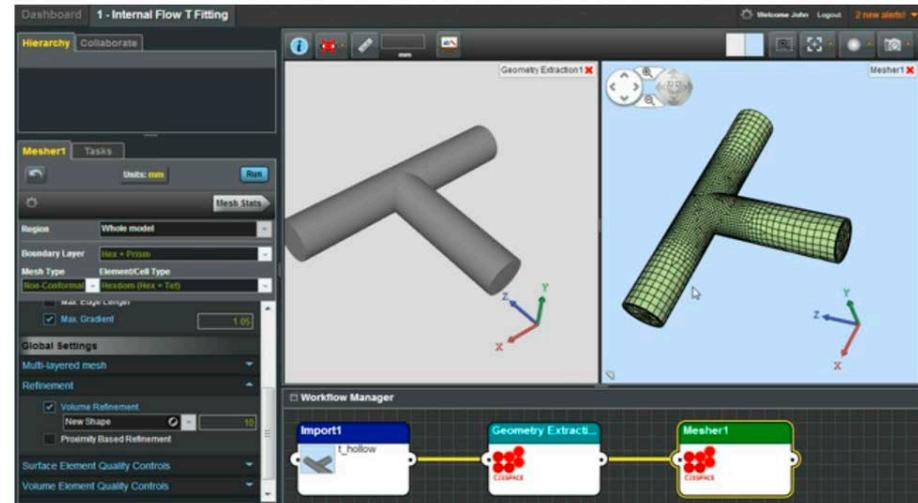
Dr. Sanjay Choudhry
CTO



John Buchowski
VP Product Management

◆ チーム組成

- NASDAQ上場経験のあるCEO (ARCH EIR)
- 大手MSC社副社長をCTOとして採用
- 大手PTC社副社長を製品担当副社長に採用

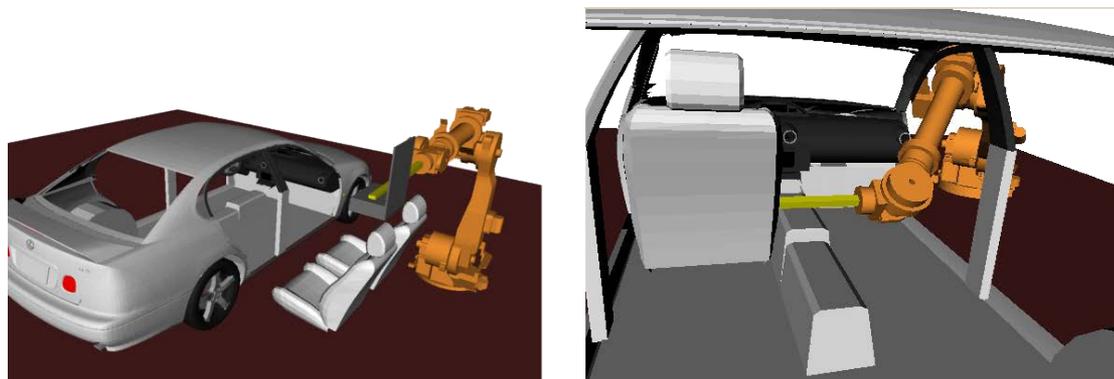


◆ 取締役会構成(会社側2名、社外2名、VC2名)

- Kevin Kern氏 (CEO) : 元Apropos社CEO (NASDAQ上場)、リアルアントレプレナー。
- 嶋田教授 (CSO) : 創業者
- Tom Beckley氏 (社外) : Neoliner社を創業しCadence社に買収、現Cadence社上級副社長
- Thomas Curry氏 (社外) ; 元MSC Software社 (NYSE上場) CEO。
- Keith Grandell氏 (VC) : ARCH Venture Partners、Managing Director
- 山本哲也 (VC) : UTEC

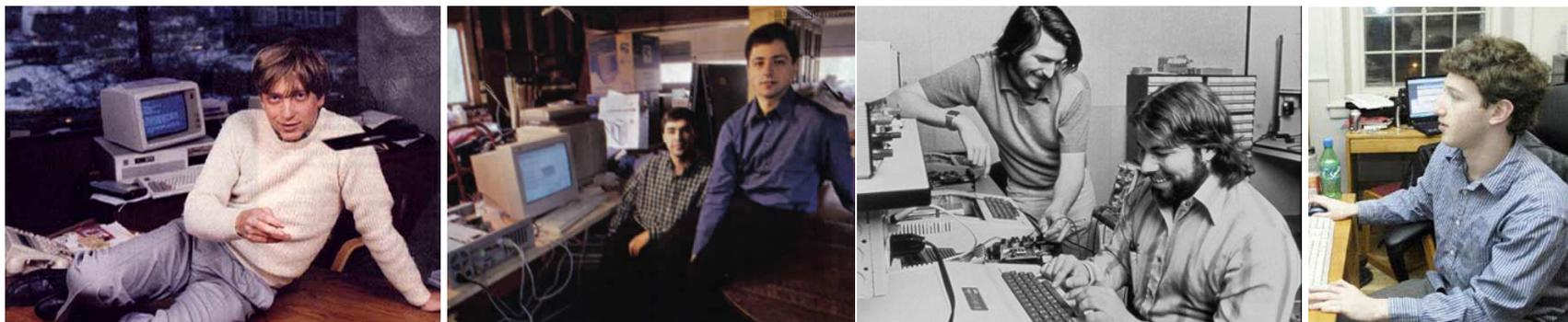
株式会社MUJIN

- ◆ 産業用ロボット向けの、ソフトウェアとアプリケーションを開発するベンチャー。
- ◆ 米国人の魯仙出杏光 (Rosen Diankov) 氏が、米国カーネギー・メロン大学の博士課程在学時に開発した世界最高のロボットの動作計画エンジン「OPENRAVE」を産業用ロボット向けに商業化することを目指し、東京大学大学院情報理工学系研究科情報システム工学研究室研究員時代に、滝野一征氏と2011年に会社設立。
- ◆ ビジネスプランを共同で構築し、UTECより2012年にシリーズA資金を投資。



- ◆ シリコンバレーではなく、日本に優秀人材が集結
 - 現メンバー5名の内、日本人1名。
 - 米国3名 (CMU、MIT他)、中国1名 (MIT)。

なぜ成功があるのか？



多数のリスク・テイクがあり、多くの失敗があるから

- 米国VCの投資先のうち**4社のうち3社**投資資金を回収できずに失敗。
- **95%**は当初プランを達成できずに失敗
(HBS調査*)

- ◆ 成功は真似できない → 今からGoogleとFacebookと同じことをしても駄目
- 次の成功の実現には、多数の新しいチャレンジ(=リスク・テイク)が必須(=イノベーション)
- ◆ 失敗にはパターンが再現が容易 → VCには失敗パターンのノウハウ集約
- 「賢い」リスクの取り方、リスクを「マネージ」するのがシークレット・ソース
- 失敗は起業家に取っての一つの選択肢、「正当な失敗」は財産

*(WSJ記事http://online.wsj.com/article/SB10000872396390443720204578004980476429190.html#articleTabs_comments%3D%26articleTabs%3Darticle)

VCによるリスク・テイクの状況

2011年	米国	日本
VC社数	843 社	46社 (JVCA会員のみ)
キャピタリスト数	6,125人	?
VCファンド総額	17兆円 (新規1.6兆円)	6,495億円 (新規390 億円)
投資社数	3,118社	292 社 (国内JVCA回答)
投資金額	2.5兆円	211億円 (国内JVCA回答)
1社平均投資額	5億円	58百万円
シード投資比率	16%	3%
IPO(VC)	53社	28社
M&A(VC)	455社	?

出展：：JVCA2012年「JVCA投資動向調査」結果概要、NVCA Yearbook 2012、為替は2011年末TTM86.58

チャレンジ

- ◆ 研究者と組める**起業家人材**の発掘。
- ◆ 優秀な経営チーム構築し、いかに**ハンズオフ**するか。
- ◆ **国内VC層**の薄さ。技術ベンチャーに投資可能なVC極めて少ない。
- ◆ **個人投資家依存**の国内IPO市場。上場後、長期投資をする機関投資家が不在。
- ◆ 大企業の**国内M&A**の少なさ。
- ◆ **大企業や研究機関での技術の死蔵。**

私見

- ◆ 国は助成だけでなく、EXITとリターンを追求する**投資によるシード段階へのリスク資金の提供**を積極的に行うべきでは。
- ◆ ベンチャー創業前の国際特許出願やプロトタイプ開発の**GAP資金の提供**を行うべきでは。
- ◆ 国の大企業への助成に際し、**シーズ供出、カーブアウト、投資、M&A推進**を仕組化すべきでは。
- ◆ 各種制度や器には**多数の失敗事例**あり。UTEC事例や、シンバポール政府の事例を研究すべきでは。
- ◆ ビジネスプロデューサーを超えて、事業化から回収まで責任を持って行う**ベンチャーキャピタリスト**が必要では。
- ◆ サラリーマン組織にはVCのノウハウ蓄積しない。機会提供、実践と淘汰を通じて、**優秀なベンチャーキャピタリストを養成**すべき。
- ◆ **国に戦略が必要**。

UTE C
Co-Founders for Innovation

東京大学エッジキャピタル

東京都文京区本郷7-3-1産学連携プラザ4F 電話
: 03-5844-6671 FAX: 03-5844-6672 e-mail:

info@ut-ec.co.jp

Web; www.ut-ec.co.jp